

仏女新聞

仏女新聞社 飯島可琳

今日は「ご開帳特集」です。

- ①七年に一度の善光寺ご開帳
- ②開創二二〇〇年の高野山

善光寺 ご開帳

牛にひかれて善光寺まいり

暑くなってきましたね。お寺巡りにははてぬぐいが必須です。汗をぬぐってもよし、手を拭いてもよし、ものを包んでもよし。とても役に立ちます。おすすめは、新薬師寺の近くの白毫寺のでぬぐいです。色使いが大胆で、巨大なえんまさまを感じさせる迫力があります。白毫寺は「南都一望」の寺として親しまれているので、景色も楽しめます。直線距離で六キロ先の薬師寺も見えます。

※全てのお寺にオリジナル手拭いがあるわけではありません。



時には二時間、三時間待たなければならぬこともあるくらいだ。今年は期間中に七百万人の参拝客があったようだ。これだけたくさんの方がお参りに来たら、本尊も前立本尊もにぎやかで楽しいだろうか、それとも騒がしくて疲れてしまっているだろうか。

善光寺本尊の阿弥陀三尊は絶対秘仏だが、前立本尊は丑と未の年、つまり数えて七年に一度だけ開帳される。ご開帳期間は、本堂の前に回向柱が立てられる。回向柱と前立本尊の手は紐で結ばれている。柱に触れると、ご本尊とつながるといふことになるので、いつも回向柱の前にはとても長い行列ができています。

私たちにとっては行列が短い方がありがたいのだが、回向柱や御印文頂戴で行列ができるのはいいことだ。並ぶ人がいるというのは仏を信じている人、仏に関心がある人がそれだけ多いということだからだ。目に見えないもの以外は信じない人しかいなかったら、仏教は生まれていなかったかも知れない。目に見えていなくても長い行列ができて、人

高野山 開創二二〇〇年

空海が高野山を開創してから今年で二二〇〇年になるのを記念して、高野山でも特別な行事が多く行われている。たとえば壇場伽藍では、ご本尊が開帳されている。そして霊宝館では、ガラス越しではなくじかに八大童子を見ることが出来る。高野山はいつにもまして参拝者が多かった。

だ。特に、晴れた青い空に似合うと思う。高野山で記念写真を撮るのだったら、根本大塔の前がいいだろう。

〜金堂〜

金堂では、ご本尊が開帳されている。これは史上初めてのことだそう。ご本尊は火災で消失し、昭和九年に新しくつくられたものだ。つくったのは高村光雲だ。金剛峯寺のホームページ (<http://www.koyasan.or.jp/k1200/>)

金堂前の中門は以前高野山に行ったときは建設中だったが、もう完成していた。中門の本堂側の二体の四天王も新しくつくられたのだが、なぜか胸にトンボとセミの彫刻が施されている。お坊さんに聞いてみると、トンボは前にしか進まないところから「後戻りしない」ことをあらわし、セミは大きな音をだすところから「仏教を大きく広める」ことをあらわしているそうだ。



(境内には昔使われた回向柱が野外展示されています。)



壇場伽藍の「根本大塔」の

朱色は何度見てもいいもの

によると、本尊の厨子は八十年間扉を閉めたままだったらしい。今回の記念すべき開創二二〇〇年で高野山が身を削って、思い切ったことをしたのだと思うとありがたい。

〜中門〜



◆豆知識◆壇場伽藍本堂前にも回向柱があります。